

syounankai 松楠会報

第55号

ごあいさつ

松楠会会長 西山 徹



このたび、小比賀会長のご勇退に伴い、伝統ある松楠会の会長を務めさせていただくことになりました。昭和47年卒の私は若輩・微力であり適任者ではないことは自覚しておりますが、会員皆様のご支援、ご協力を得ながら松楠会の充実発展に努めて参りたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いたします。

さて、会報誌を読み返してみますと、本会の目的「会員相互の親睦をはかると共に母校と一体となって教育振興の実をあげる」について、それぞれの時代に合った具体的取り組みが行われていることが分かります。そして、来年10月には、130周年記念事業開催を予定しています。教育振興の実をあげるために何ができるのか、また、会員相互の親睦を深めるために何をすべきか、そういったことを再確認し、松楠会の組織力を高める機会になればと考えています。本年度立ち上げる実行委員会を中心に会員各位のなご一層のご理解とご協力を得ながら、新しい元号の元年に開催する記念事業の成功を祈念してごあいさつとさせていただきます。

地域創生時代の教育の発展に貢献

香川大学教育学部長・教育学研究科長 毛利 猛



香川大学教育学部は、ながい沿革の歴史をもつ学部です。その前身である香川県尋常師範学校は明治23年に開校しています。戦後は、香川師範学校・香川青年師範学校を母体に香川大学学芸学部として発足し、1966年に教育学部と改称され、今日に至っています。

松楠会会員の皆さまには、日頃より母校へのご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。平成30年度を迎えて、学部・研究科の現状と今後について報告させていただきます。

大学院教育学研究科では、平成28年4月に、高度教職実践専攻(教職大学院)を開設しました。教育学研究科は、今後、平成32年度を目途に、教職大学院へと重点化(教科領域を含む拡充した教職大学院へと移行)する予定です。

教育学部においては、平成30年度から人間発達環境課程が募集停止しました。これにより新しい教育学部は、160名を入学定員とし、学校種別の3コース(幼児教育コース、小学校教育コース、中学校教育コース)からなる、教員養成に特化した学部になります。

また、教育学部では、小学校英語教科化に向けた取り組みとして、小学校現職教員が中学校2種免許(英語)を取得できるようにする免許法認定講座を平成28年度から平成30年度までの3ヵ年計画で実施しています。さらに、教育学部における高大連携の取り組みとして、平成29年度に開設された県立坂出高校「教育創造コース」の教育プログラムに協力しています。

香川大学教育学部と大学院教育学研究科は、これからも質の高い教育人材の育成と教職の高度化、そして地域と学校の課題解決に応える教育研究を通じて、地域創生時代の教育の発展に貢献します。松楠会会員の皆さまには、どうか今後とも母校を応援していただきますようお願い申し上げます。

組織の活性化を願って

前松楠会会長 小比賀 俊彦



岩島前会長から引き継いで2年間、力不足を感じながら何とか過ごして参りました。若年会員活性化事業、松楠会支援事業には、特に力を入れてきました。多少の成果はみられましたが、期待以上ではありませんでした。力不足を反省する今日です。また、来年度には、香川大学教育学部創立130周年を迎えるという時に、会長を退くということは、責任逃れという誇りを受けることは免れません。それも覚悟の上で……。

組織の活性化には、ベテランの豊富な経験と若手の柔軟な発想が必要とよく言われます。その通りだと思います。両者のバランスが大切です。ベテランの経験がいつの間にか錆付き、若手の意見を聞き入れない、時代遅れの組織になってはならないと思っています。

130周年を迎えることを契機に、120周年記念事業に携わった者は、潔く退き、新しいメンバーで、新たな発想で実施することが肝要だと思っています。

松楠会の一層の発展と、130周年記念事業の成功を心から願っています。

退職教員より

退職前の日々、退職後の日々

岡 晋平



退職前の数ヶ月は年金の手続きに悩殺されました。というのも60歳になったときにやるべき手続きをやっておりませんでしたので、給与福利グループの方々に大変なご迷惑をおかけしました。そして最後の一ヶ月、案の定研究室の整理が大変。七條先生が荷物の一時退避先として貸倉庫を借りたという噂になるほどなと領いたり、同じフロアの中谷先生の部屋に偵察に行き、「ふむ、いい勝負だな」と妙に納得したりしつつ、日々奮闘した結果、何とか3月30日に総務係に鍵をお返してきたことは、私にしては上々の幕引きだったと自負しております。最終講義は辞退させていただきました。葬式が、縁遠い親戚を集める死者の最後のご奉公であると同じように、最終講義も、疎遠になった卒業生の親睦に役立つ退職教員最後の役目であることは重々承知しながら、「かつて縁があり、今は縁のない方々」にとにかく会いたくないという私の身勝手な性分に従わせていただきました。

そして退職してほぼ一ヶ月が過ぎました。非常勤講師等をするわけでもなく、まったくフリーの身です。退職前に退職後のことを想像したとき、毎朝起きたとき、することがなくて困るのかな、あるいは毎日市の図書館通いかな、なんて考えていました。しかしながら、そうでもなく、なんやかやで結構することがあるものです。まず毎朝のゴミ出し。それから小学校のPTA会長を拝命いたしまして、若いお母さん方と一緒に汗を流しています。また、坂出数学オリンピックという催しの実行委員長もやっております。毎年、小中学生にそこそこの難問を出しているわけですが、私自身は問題を作るわけではなく、もっぱら小中の先生方が持ち寄った問題をチェックする役に専念しています。これが結構いい頭のトレーニングになり、老後のボケ防止に

役立つのではと密かに期待しています。

昔から趣味は結構幅広い方で、今はもっぱら「蝶の写真撮影」に凝っています。松楠会の「楠」はクスノキの意。クスノキといえば(私にとっては)アオスジアゲハの食草。黒地に半透明の青い紋が入ったアゲハチョウで、香川大学教育学部の構内でもクスノキの周りを猛スピードで飛び回っています。子供の頃、ブーメラン型のこの蝶の羽が大好きで、学校の裏手に卵や幼虫を探しに行ったことを思い出します。私もこのアオスジアゲハにあやかって、爽快な老後を迎えられたらと願っている今日この頃です。

定年を迎えて

七條 正典



この度、香川大学教育学部での17年間の勤めを無事終え、定年を迎えることができ、誠にありがとうございました。私自身は、研究者としても、実務家としても、中途半端な立場であったように思いますが、教育学部附属教育実践総合センター(現教職支援センター)で働けたことは、その弱みを強みとして、これまでの経験を生かし、実地教育の在り方の改善や、学部と、附属学校園や県の教育委員会等の教育関係機関とをつなぐ役割を果たす上で、私にとっては、大変ありがたいことでした。

フレンドシップ事業の実施、「教職実践演習」の立ち上げ、1年次～4年次までを見通した実地教育の在り方の改善、学部生の教職支援のための活動の充実、附属学校園や県の教育センターとの共同研究、公開講演会の企画・実施、そして、最後の2年間教職大学院を担当できたこと等、たくさんの思い出をいただき、本当に感謝申し上げます。香川大学教育学部、並びに松楠会の今後ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

退職後に役立つ遊びの研究

佐々木 信行



私の定年退職記念祝賀会に来賓として来られていた名誉教授の上杉正幸先生から次のようなお祝いの言葉をいただきました。それは、退職したら思い切り遊び、遊んでから次のことを考えましょう、という内容のものでした。私は甚く共感し、自分も是非実行しようと思いましたが、と言いながら、退職後も大学の学部や大学院の非常勤講師を委嘱され、地域の子供会の役員なども仰せつかり、完全に遊ぶというところまではなかなかいきませんが、かなり遊び気分楽しくやっております。

上杉先生とは在職中に人間環境教育コースということで、同じゼミを担当し、一緒に遊びについての研究をしたことがあります。遊びとは何か？人はなぜ働くのか？なぜ遊ぶのか？というようなことについて真剣に考え話し合ったことがあります。定年後にこのような形で役に立つとは思いませんでした。現在その研究成果を生かしながら、真剣に(?)遊んでいるところです。

終わりになりますが、私の定年退職にあたりましては、松楠会より身に余る退職祝いを頂戴いたしました。心より御礼申し上げます。

退職のご挨拶

中谷 博幸



本年3月末をもって定年退職をいたしました。1982年5月に赴任して以来、約36年にわたり、たいへんお世話になりました。ありがとうございました。最初社会科教育講座の歴史学研究室におりましたが、1998年からは人間発達環境課程の人間環境教育コースに属することになりました。それに伴い、西洋史の免許に係わる科目の他に、生死文化論や芸術環境論など幅広い授業を担当することになりました。香川大学教育学部はヨーロッパの中世大学の基礎教育を担当したりベラル・アーツの伝統をもつ学部ですが、人間発達環境課程はその伝統を現在に生かそうとした課程で、私見では香川大学でもっとも大学らしいところであったのではないかと思います。その課程で教員生活を過ごせたことは幸いでした。卒業生は、大学で学んだ幅広い教育に関する素養を生かして、いろんな分野で活躍しています。また、大学院では、社会科教育講座に属し、7名の修論の指導を行いました。そのうち、6名が小学校、中学校、高校の教員として頑張っています。振り返って興味深いのは、その出身が教育学部とともに法学部、経済学部、他大学の法文学部に及んでいることで、学部、大学院ともに多様な学生たちから刺激を受ける環境で生活を送ることができ、感謝しています。

最後になりましたが、松楠会の皆様のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。

母校教員の異動

退職

平成30年 3月31日	退職(定年)	岡 晋平	教授	H30.4.1付け名誉教授
	退職(定年)	佐々木 信行	教授	H30.4.1付け名誉教授
	退職(定年)	七條 正典	教授	H30.4.1付け名誉教授
	退職(定年)	竹中 龍範	教授	
	退職(定年)	中谷 博幸	教授	H30.4.1付け名誉教授
	退職(転出)	田崎伸一郎	准教授	交流人事教員
	退職(転出)	池田 恭哉	准教授	京都大学へ
	退職	村上 祥子	特命准教授	
	退職	松井 保	特命准教授	

併任

平成30年
4月1日 佐藤 明宏 附属高松中学校長

昇任

平成30年 4月1日	教授	小方 朋子
	教授	鈴木 正行
	教授	佐竹 郁夫
	教授	齋藤 嘉則

採用

平成30年 4月1日	准教授	唐澤 晃一	教科教育分野	社会領域
	准教授	四ッ谷直仁	教科教育分野	数学領域
	准教授	畦 五月	教科教育分野	家庭領域
	准教授	金綱 知征	高度教職実践専攻	教職大学院
	講師	東浦亜希子	教科教育分野	音楽領域
	准教授	大熊 裕樹	高度教職実践専攻	教職大学院
	特命教授	津山 勝義	高度教職実践専攻	教職大学院
6月1日	准教授	古橋 紀宏	教科教育分野	国語領域

他学部へ異動(配置換)

平成30年 3月31日	教授	竹森 元彦	医学部へ
	教授	橋本 忠行	医学部へ
	教授	山田 俊介	医学部へ
	教授	林 智一	医学部へ
	教授	倉石 文雄	創造工学部へ

訃報

柳井 修(教授) 平成29年8月8日 逝去 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

高松支部 Takamatsu



新しいスタート

平成30年度、香川支部と高松支部は合流して新しい形でスタートすることになりました。両支部の長を生かした活動を展開しなければ、と話し合っています。

準備不足の面もあったと思いますが、若い会員の活動の充実、時宜を得た研修の実施、細やかな広報活動などに努め、会員の皆様の「ほっとできる場」作りを目指していきます。

松楠会のご支援、支部会員の方々のご協力を得ながら、努力してまいりたいと思います。

山下 祐一(教育・昭和43年卒)

丸亀支部 Marugame



平成29年度の丸亀支部総会は、8月29日(火)に、丸亀市生涯学習センターで開催しました。28年度の事業・決算・監査報告、29年度の事業計画・予算案審議を行い、後半は「家庭にあるもので、おもちゃをつくろう」とのテーマで、「パッケン魚釣り」と「ペットボトル風車」を作りました。総会後の懇親会も、楽しかったこと・苦労したことなど、思い出を語って過ごしました。来年の再会を約束した楽しい半日でした。

前田 伸雄(学芸・昭和40年卒)

坂出支部 Sakaide



坂出支部の会員は、現職140名、OB127名の計267名です。

昨年度、坂出支部総会を8月27日(日)に開催し、松楠会副会長の大山正子様、学内理事の中島栄美子様のご臨席をいただきました。総会後には、支部の先輩である山田知志先生より『新学習指導要領の告示を受けて先生方に期待したいこと』と題してご講話をいただき、大きな力となりました。今後とも、充実した運営を図りたいと考えております。

桑原 育子(教育・平成4年卒・香川大学教育学部附属幼稚園)

大川支部 Okawa



平成29年度松楠会大川支部総会は、8月20日(日)に、さぬき市クワパーク津田にて開催されました。松楠会本部から中西真理子副会長、佐藤明宏理事をご来賓としてお招きし、26名の会員の出席をえて、盛大に行われました。

総会では、平成28年度の事業報告、会計報告、平成29年度の事業計画、予算案等について協議し、最後に役員改選を行いました。記念講演には、香川大学に関わる先生という点から、教育学部教授佐藤明宏先生に『国際化時代の国語教育』と題して、ご講演をいただきました。小学校における英語教科化にむけて、国語教育の視点からのご示唆をいただきました。



大川支部の平成29年度の会員数は、396名(OB会員235名 現役会員161名)です。今後とも会員相互に連携を深めるとともに、先輩の先生方や本部の皆様の指導を賜りながら、会員の研修、懇親の場として充実した運営を進めていきたいと考えています。

白河原 力(教育・昭和57年卒・東かがわ市立白鳥小学校)

小豆 支部 Syozu



新事務局長決まる

本支部の事務局で長い間献身的に活躍されていた三木吉昭事務局長が、体調をくずされて、後任者を頼むとの要望をだされてからもう2~3年以上になる。先生に会うたびに、もうちょっと、もうちょっと辛抱してくれと答えて、人選に励んでいた。

今年になってやっと人を得た。その人は、快く事務局を引き受けてくれた。

新事務局長：松岡 裕之(昭和55年卒)

坂下 公臣(学芸・昭和37年卒)

木田 支部 Kita



平成29年度の木田支部の主な活動は、7月の役員会と8月の総会・懇親会並びに教育講演会の開催です。8月23日の総会はトレストア白山で開催し、総会や懇親会には、若年教員の参加も増えてきており、今後ますます積極的な参加を呼びかけていきたいと思

ます。午後からは、三木町防災センターで木田教育会との共催で教育講演会を開催しました。講師は、香川大学教育学部名誉教授田中健二先生にお願いし、「江戸時代の開発と防災」と題してのご講演をいただき、大変有意義なものとなりました。ハザードマップをもとにこれからの防災についてご示唆いただきました。今後も松楠会が会員の親睦を深めつつも、教育課題等についてお互いに学ぶ機会になればと思っています。

児玉 博美(教育・平成2年卒・三木町立平井小学校)

綾歌 支部 Ayauta



5月の総会には本部より山神理事長様、大山副会長様のご臨席を頂き、議事に若年会員活性化事業の報告も取り入れました。竹下和男先生の講演「子どもを台所に立たせよう」は共感と感動を呼ぶものでした。懇親会には現職とOBが集い、和やかなひと時となりました。会則の制定と役員構成の大幅な変更を行い3年目、支部だよりも第3号を発行し、参加できなかった会員も懐かしい仲間の写真や近況報告を目にでき、嬉しい交流の場となっています。幅広い出席者の増が課題です。

鷺辺 達子(教育・昭和45年卒)

仲善 支部 Tyuzen



支部だより

本支部の会員は、OB215名、現職146名計361名。活動として総会と新年祝宴会を開催している。毎回、30数名の方に参加していただいている。



懇親の場では近況を報告し合ったり学生時代や教員時代の思い出に話を弾ませたりして笑顔いっぱいの時間となっている。

また、本支部の特徴の一つとして折り紙で「鏡獅子」を作ったり切り絵で「干支の犬」を切り抜いたりして作品作りを行っている。

武田 眞智子(教育・昭和51年卒)

三観 支部 Sankan



四国新聞に「あの日あの時」として、10人以上の県内関係の集合写真が紹介されている。ほとんどが同窓会の写真で、高齢者のものが多い。楽しく、有意義な時間を過ごされたであろうことがうかがえる、穏やかな顔が並んでいる。

「縁を縁とも知らず見過ごす人を下品(げぼん)とすれば、縁を縁と知りつつ生かし得ない中品(ちゅうぼん)があり、袖振り合う縁も生かし得る人もあって、これを上品(じょうぼん)の人と申せましょう。」(森信三語録)

人は「出会い」によって人生が豊かになるといわれる。「出会った」人お互いが、豊かになったと感じてくれることをめざした支部活動にしたい。

藤田 善秋(教育・昭和43年卒)

兵庫 支部 Hyogo

兵庫県支部総会は、6月18日(日)に落語家の桂あやめ師匠をお迎えして、12名の参加で開催しました。



初めての参加者もいて楽しい半日でした。

また、若手懇親会(将来の夢を語る会)を11月25日に開催しました。神戸フィルムオフィス代表の松下麻里様を講師に迎え、神戸の魅力について話をしてもらいました。参加者は8名と少なかったのが、残念です。

30年度も同じように企画する予定です。

木岡 正雄(教育・昭和48年卒)

岡山 支部 Okayama



2017年8月11日、支部総会を開催した。本部から副会長の西山徹先生、学内理事の植田和也先生ご出席のもと、総勢37名の参加者。初参加者9名。次代を担う県内出身学生5名の講演会参加。少数参加の現状改善を目指した取組の成果だ。取組一、本部に具体的取組の協力を依頼。対して、学内理事の植田先生が、現場関心事の「道徳科」を前面に、研究つながり・師弟つながりの声掛けと、講話で応えてくださったこと。取組二、松楠会員である岡山市教育長の菅野和良先生に講演会講師を依頼、ご快諾いただいたこと。剣道に明け暮れた学生時代から教員時代へ、そして今、温かいお人柄に人生訓を踏まえた厳しさも交え、充実したご講演だった。大学内に「岡山県人会」も生まれ、支部に新しい風が吹き始めている。嬉しい。

横山 茂樹(教育・昭和51年卒)



徳島支部

Tokushima



支部組織の活性化と発展を目指して

徳島支部は、結成2年目を迎えた現役メンバーがその構成のほとんどを占める若い組織です。年に一度の支部総会では、徳島の子供達の大きな成長と幸せを願って、実践力の向上に繋がる教育談義に花が咲き、活況を呈します。

まだまだ、十分な活動が出来ていない状況ですが、若手会員の拡大と事業の活性化を目指していきたくと思っています。本部の手厚い支援を頂き、地道ながらも確実な活動を展開していきたくと思っています。

熊野 敏彦(教育・昭和55年卒)



香川大学教育学部創立130周年記念誌 教育学部で過ごした思い出の写真を募集します！

来年度の香川大学教育学部創立130周年に向けて、松楠会では記念誌を作成することになりました。記念誌には、香川大学教育学部の現在に至るまでの写真を掲載したいと考えています。そこで、同窓生の皆様から思い出の写真を募集します。在学当時の香川大学の建物、研究室の仲間や恩師との思い出の一枚など、どのような写真でも結構です。

写真は、画像ファイルをメール添付でお送りいただくか、現物あるいはその複写を郵送にてお送りください。なお、お送りいただく写真の個人情報に関する内容は、事前に関係者にご了解を得ていただきますようお願いいたします。また、ご提供いただいた写真は同窓会館にて保存させていただきます。写真の返送はいたしかねますのでご了承ください。ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。



送付先 〒760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部同窓会松楠会事務局
メールアドレス: syounan@ed.kagawa-u.ac.jp TEL: 087-832-1414

*お名前と分かれば撮影した年や日付(○月頃でも可)を明記してください。

松楠会支援事業

平成29年度松楠会支援事業の活動報告は、松楠会ホームページをご覧ください

● ● ● 平成31年度松楠会支援事業の募集 ● ● ●

高校生以下の児童・生徒を対象にした青少年の健全育成事業、教育活動事業などに対する松楠会支援事業を下記の要領で募集します。

- 1 支援する事業は、松楠会の会員が企画・実施の中心になっているもので、1事業につきおおよそ30万円を上限とする。
- 2 提出書類 …………… (1) 企画書 (2) 予算見積書 (3) その他参考資料等
- 3 応募締切 …………… 平成31年1月31日
- 4 提出先および問合せ先 …… 〒760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部同窓会松楠会事務局
メールアドレス: syounan@ed.kagawa-u.ac.jp TEL: 087-832-1414

なお、同一事業の採択は、4回までとします。選考結果については、2～3月中に通知します。対象となる児童・生徒に募集案内チラシ等を配布する際には、この事業が松楠会(香川大学教育学部同窓会)の支援を受けていることを明記し、そのチラシを企画書または報告書に添付して提出してください。

平成30年度松楠会役員

*は、今年度新しく交代された方と、以前の役職に復された方です。

役員

会長	西山 徹*						
副会長	中西真理子 梶野 雅義 貞廣美津子*						
顧問	毛利 猛						
理事長	山神 眞一						
学内理事	藤田 尚史	佐藤 明宏	西田 智子	坂井 聡	片岡 元子	山本木ノ実	
	植田 和也	宮本 賢作*	塩井 実香	中島栄美子	大浦みゆき	高橋 智香	
	稗田 美嘉	佐藤 盛子	大熊 裕樹*	津山 勝義*			
(但し、佐藤(盛)、大熊の学内理事期間は、人事交流の期間とする。津山の学内理事期間は、特命教授の期間とする。)							
附属理事	倉沢 均 (高松) 樽本 導和 (坂出)						

支部事務局

	郵便番号	住 所・勤務校	担当者
高 松 支 部	760-0080	高松市木太町2613 高松市立木太北部小学校*	池田 茂樹
丸 亀 支 部	763-0051	丸亀市今津町348 丸亀市立城坤小学校	北浦留理子
坂 出 支 部	762-0031	坂出市文京町1-9-4 香川大学教育学部附属幼稚園	桑原 育子
大 川 支 部	769-2705	東かがわ市白鳥525 東かがわ市立白鳥小学校	白河原 力
小 豆 支 部	761-4411	小豆郡小豆島町安田甲1696-1	松岡 裕之*
木 田 支 部	761-0702	木田郡三木町平木710-1 三木町立平井小学校	児玉 博美*
綾 歌 支 部	769-0105	高松市国分寺町柏原1034	鷺辺 達子
仲・善 支 部	764-0026	仲多度郡多度津町南鴨366-3	武田眞智子
三・観 支 部	768-0060	観音寺市観音寺町甲2558-1 観音寺市立観音寺小学校	澤田 純三
愛 知 支 部	470-1167	愛知県豊明市栄町西大根99-24	古田三千年
大 阪 支 部	567-0884	大阪府茨木市新庄町6-9	信垣 綾子
兵 庫 支 部	651-2277	兵庫県神戸市西区美賀多台4-7-20	木岡 正雄
岡 山 支 部	701-1211	岡山県岡山市北区一宮892-9	小林 巧*
徳 島 支 部	771-3201	徳島県名西郡神山町阿野字五反地187-1	大草 晴香

事務局報告

平成30年度評議員会(総会)の報告については、松楠会ホームページをご覧ください。

平成29年度 松楠会支援事業

- ひみつ見つけはおもしろい! 2017夏 (代表 中田 シゲ子 他6名)
- 水ロケット甲子園 (代表 大野 憲三 他)

平成29年度 学生支援事業

- 未来からの留学生 (平成29年10月15日 香川大学幸町キャンパス)
- 第11回わくわくコンサート (平成30年2月12日 サンポートホール高松)

平成29年度 表彰者

- 植田 和也 『教員としてのホップ・ステップ～磨こう授業力・学級経営力』 2万円
- 佐藤 明宏 『聞く、読む、書く能力の認知特性・発達状況を把握する
小・中学校国語科スクリーニングテスト』 2万円
- 濱中 紀子 『小学校英語指導の実際～明るく、楽しく、確かな指導のために～』 2万円
共著 齋藤嘉則、鈴木 渉
- 坂井 聡 ユニバーサルデザインの国際的な賞である
『IAUD アウォード2017 金賞』を受賞 2万円



地域とともに 子どもを育てる

高松市立下笠居小学校 校長 久保 直人



平成29年4月より、高松市西部に位置する児童数約240名の下笠居小学校に勤務しています。校区の南には五色台(青峰山)や勝賀山、北には瀬戸内海が広がり、斜面ではミカンやビワ、キウイなどの果物の栽培、平地では稲作、海ではのりの養殖などが盛んに行われています。「山幸、野幸、海幸と、ゆたけき郷土の生業の…」と校歌にも歌われるように、豊かな恵みをもたらす郷土にて子どもたちは伸び伸びと育っています。



下笠居ダッシュ村

地域は学校に対してとても協力的で、ミカンの栽培について調べる学習では喜んで子どもたちを迎えてくださり、剪定作業や収穫作業を実際に体験する場を設けてくれるなど、価値ある学びを支えてくれます。学校では、特に生活科・総合的な学習で体験的な学びを重視しており、昨年は6年生が地域の「おやじの会」と連携し、地域を盛り上げることを共通のめあてとして、『下笠居ダッシュ村』の企画・運営に取り組みました。子どもたちの発案でサスケ(体力の限界にチャレンジ)コースの設定、竪穴式住居作り体験、容器やお箸から作る竹飯・竹パン作りなど、参加者が楽しめるイベントを工夫した結果、当日は100名を超える子どもたちの参加で大変盛り上がりました。企画した6年生も大満足で、小学校生活一番の思い出として卒業文集に記す子どももたくさんいました。

今後、高松型コミュニティ・スクールの展開とともに、より一層地域とのつながりを重視した学校運営が求められる今、学校教育目標の実現に向け地域とともに子どもを育てる実践を積み重ねていきます。



サスケコース



竪穴式住居作り



竹パン作り

第6回 ホームカミングデー

平成30年11月4日(日) 実施予定

詳細が決まりましたら、松楠会HPに掲載いたします。

編集後記 ■ ■ ■

- 原稿執筆にご協力をいただきました皆様のおかげで、第55号会報が発行できますことを心より感謝申し上げます。今年度はホームカミングデー、そして来年度は、香川大学教育学部創立130周年記念と、同窓生の皆様と共に集い語り合う場を通して、より一層の絆を深めて参りたいと思います。今後とも、松楠会をどうぞよろしく願いいたします。

松楠会ホームページ

松楠会

検索

<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~syounankai/>



松楠会報

第55号

発行日 平成30年7月5日

発行人 西山 徹

編集 山神 眞一

山本木ノ実

中島栄美子

片岡 元子

植田 和也

香川大学教育学部同窓会 松楠会